

[日]《东方学报》总目 (1-76)

2005-04-02 [日]京都大学人文科学研究所 国史探微 点击: 1312

[日]《东方学报》总目 (1-76)

[日]《东方学报》总目 (1-76)

[日]京都大学人文科学研究所

2005-03-26 21:59:46 阅读 156 次

摘自日本京都大学人文科学研究所网页

東方学報の創刊は、1930年であり、爾來、毎年少くとも1冊を刊行し、現在72冊に達しているが、創刊当時本研究所と姉妹関係にあった「東方文化学院東京研究所」の紀要も、同じく「東方学報」であったので、それを区別するために「東方学報 京都第〇冊」なる表示がとられてきた。現在でも、「京都大学人文科学研究所紀要第〇冊」としての通し番号のほかに、「京都 第〇冊」なる表示が附記されているのは、その名残りである。

毎号、大体所内研究員もしくは東方学研究所所属の所外共同研究参加者の東洋学に関する研究論文を10篇ほど掲載しているが、共同研究の報告として特輯されている場合もある。たとえば、第23冊は「殷代青銅文化の研究」、同第24冊は「元典章の研究」、同第27冊は「漢代史研究」、同第30冊は「中国古代科学技術史の研究」、同第35冊は「敦煌研究」の特輯号である。なお同第36冊は「創立35周年記念論集」、同第41冊は「創立40周年記念論集」、第52冊は「創立50周年記念論集」、第62冊は「創立60周年記念論集」、第72冊は「創立70周年記念論集」にあてられている。

第76冊 (2004年3月)

「孟蘭盆經」から「目連變文」へ—講經と語り物文藝との間— 小南一郎
 『事林廣記』學校類譯注(一) 「元代の社會と文化」研究班
 江陵張家山漢墓出土「二年律令」譯注稿その(一) 「三國時代出土文字資料の研究」班
 張家山漢簡《二年律令》解題 宮宅潔
 二年律令に見える法律用語—その(一) 富谷至
 中國におけるヴァルター・ベンヤミン研究について 井波陵一
 アフガニスタンにおけるハラジュの王國 稻葉穰

第75冊 (2003年3月)

先秦時代の供犠 岡村秀典
 「孟蘭盆經」から「目連變文」へ—講經と語り物文藝との間— 小南一郎
 修端「辯遼宋金正統」をめぐって
 -元代における『遼史』『金史』『宋史』三史編纂の過程— 古松崇志
 ビン粵沿海民の活動と清朝—一九世紀前半のアヘン貿易活動を中心に— 村上衛
 『事林廣記』人事類譯注 「元代の社會と文化」研究班
 甲骨文左右二字辨 森賀一恵
 桑山正進教授著述目録

第74冊 (2002年3月)

中國古代における墓の動物供犠 岡村秀典
 「十王經」の形成と隋唐の民衆信仰 小南一郎
 『事林廣記』刑法類・公理類譯注 金文京
 捨身の思想—六朝仏教史の一断面— 船山徹
 九十年代海峽兩岸の名分秩序交渉—亞洲開發銀行的席位之爭— 張啓雄
 狭間直樹教授著作目録

第73冊 (2001年3月)

後漢魏晉注釋書の序文 古勝隆一
 晉泰始律令への道—第二部 魏晉の律と令— 富谷至
 實徵冊と徵稅 高嶋航
 「序在書後」説の再検討 池田秀三
 元朝の科擧資料について—錢大昕の編著を中心に— 森田憲司
 天津皇子「臨終一絶」と陳後主「臨行詩」 金文京
 許氏楡園刊『文粹』の本文について—白居易二詩篇を繞って— 神鷹徳治

中国史研究网络资源导航

文章搜索

研究论文

近期热点文章

累计热点文章

- [《魏晋南北朝隋唐史资料》总目\(1-20辑\)](#) (陈爽整理)
- [《古文字研究》总目\(1-24辑\)](#) (魏宣辉)
- [《北朝研究》总目](#) (陈爽整理)
- [《唐研究》总目](#) (荣新江整理)
- [《中国边疆史地研究》总目\(1991-2002\)](#) (象牙塔)
- [《中亚学刊》总目\(1983-2002\)](#) (余太山整理)
- [《北大史学》总目\(1-9辑\)](#) (彭晓瑜整理)
- [《蒙古史研究》总目\(1-6辑\)](#) (孙瑜整理)
- [《元史及北方民族史研究集刊》总目\(1-15辑\)](#) (孙瑜整理)
- [《元史论丛》总目\(1-8辑\)](#) (孙瑜整理)
- [《历史地理》总目\(1-19辑\)](#) (象牙塔)

元史論
宋元通論
唐宋通論
北宋南宋
辽西夏
蒙元史論
明清史論
明清通論
明代通論
明中后期
清代通論
清代前期
近代史論
近代通論
清代晚期
民国通論
民国初年
国民政府
紅色区域
現代史論
近世通論
現代通論
前十七年
文革时期
改革开放

了行とその周邊 野口 實
宋版一切經補刻葉に見える「下州千葉寺了行」の周邊 牧野和夫
刻手名による朝鮮刊本の刊年・刊地決定について 藤本幸夫
『任昉述異記』考 中島長文
『任昉述異記』校本 中島長文
『經典釋文』の變遷——「舜典」釋文諸本にみるその利用環境—— 木島史雄
荒牧典俊教授著作目録
勝村哲也教授著作目録
吉川忠夫教授著作目録

第72冊（2000年3月）創立70周年記念論集

殷代における畜産の変革 岡村秀典
桃の伝説 小南一郎
晋泰始律令への道—第一部 秦漢の律と令 富谷至
島夷と索虜のあいだ—典籍の流傳を中心とした南北朝文化交流史— 吉川忠夫
北魏の忠臣 高允の仏教思想について 荒牧典俊
穀食忌避の思想—辟穀の伝統をめぐって— 麥谷邦夫
『孝經』玄宗注の成立 古勝隆一
敦煌變文の文体 金文京
高麗国初の広評省と内議省 矢木毅
李東垣医書における「短氣」の意義 東郷俊宏
元代河東塩池神廟碑研究序説 古松崇志
清代の版図順莊法とその周辺 岩井茂樹
清代の賦役全書 高嶋 航
生計学と経済学の間 森 時彦
王国維と『盛京時報』 井波陵一
五四運動と日本—親日派三高官「罷免」問題をめぐって— 狭間直樹
再読『麗莎の哀怨』—上海文学の白系ロシア人— 濱田麻矢
卜辞の法表現 森賀一恵
西周後期の編鐘の設計—戎肆庵読裘記之三— 浅原達郎
祖冲之の数学的業績（一） 円周率の算定 武田時昌
舜典釈文考 木島史雄
一六世紀前半北インドの Mugul について 真下裕之
近代粵語の母音推移と表記 高田時雄
西暦一九〇〇年に記録されたナムイ語の語彙— H. R. Davies 著 YUN-NAN 所載の西南中國の民族語彙研究—
池田 巧
『营造法式』自序看詳総釈部分校補訳注（上） 田中 淡
彙 報 一九九九年一月より一九九九年一二月まで

第71冊（1999年3月）

楚辭天問篇の整理 小南一郎
汲冢書發見前後 吉川忠夫
『經典釋文』の著述構想とその變用の構圖—<書物の情報表示形式の適正化>の視点から— 木島史雄
中國共產黨在革命時期三次左傾錯誤的比較研究 金沖及
試解清嘉慶年間—張徽州地契—兼論明清佃權的產生及典買— 周紹泉
甲骨文中反映的農業禮俗 宋鎮豪
『真誥』譯注稿（四） 「六朝道教の研究」研究班

第70冊（1998年3月）

明堂泛論—明堂の考古學研究— 楊鴻勛
干寶「搜神記」の編纂（下） 小南一郎
『目連問戒律中五百輕重事』の原形と變遷 船山徹
高麗における軍令權の構造とその變質 矢木毅
梁啓超與宗教問題 巴斯蒂（Marianne BASTID-BRUGUIERE）
北齊禪觀窟の圖像考 顏娟英
アジャンター第九窟・第十窟壁畫—制作年代の問題を中心に— 定金計次
アウグストゥス靈廟と大ストウパー車輪状構造の由來— 桑山正進
『真誥』譯注稿（三） 「六朝道教の研究」研究班
梅原郁教授著作目録

第69冊（1997年3月）

干寶「搜神記」の編纂（上） 小南一郎
『棟亭五種』の同校者たち 井波陵一
六朝藝術論における氣の問題 宇佐美文理
北魏河南の一光三尊佛像 石松日奈子
寶山靈泉寺石窟塔銘の研究—隋唐時代の寶山靈泉寺— 大内文雄
優填王像東傳考—中國初期唐を中心—
湖北陰湘城遺址研究（I）—一九九五年日中聯合考古發掘報告— 岡村秀典・張緒球編
元史刑法志譯注稿（三） 「中國近世の法制と社會」研究班
『真誥』譯注稿（二） 「六朝道教の研究」研究班

第68册（1996年3月）

漢代穀倉制度—エチナ川流域の食料支給より— 富谷至
白玉蟾と南宋江南道教 横手裕
康熙辛卯江南科場案について 井波陵一
施存統と中國共産黨 石川禎浩
陸德明學術年譜 木島史雄
李義山七律集釋稿（九） 李義山七律注釋班
元史刑法志譯注稿（二） 「中國近世の法制と社會」研究班
眞誥譯注稿（一） 「六朝道教の研究」研究班
小野和子教授著作目録

第67册（1995年3月）

六朝時代における菩薩戒の受容過程—劉宋・南齊期を中心に— 船山徹
清代則例省例考 谷井陽子
刑は大夫に上らず—宋代官員の處罰— 梅原郁
明後期祁門胡姓農民家族生活狀況剖析 周紹泉
Shah-ji-ki Dheri主塔の遷變 桑山正進
元史刑法史譯注稿（一） 「中國近世の法制と社會」研究班

第66册（1994年3月）

漢代の祖靈觀念 小南一郎
劉後村と南宋士人社會 中砂明德
元朝的審判機構和審判程序 陳高華
ガズナ朝の「王都」ガズナについて 稻葉穰
『大唐天竺使出銘』及其相關問題的研究 霍巍
ソグド文字で表記された漢字音 吉田豊
李義山七律集釋稿（八） 「李義山七律集釋」研究班
舊五代史、遼史、金史刑法志譯注稿 「中國近世の法制と社會」研究班
荒井健教授著作目録

第65册（1993年3月）

中國遼東半島の史前文化 安志敏
漢代畫像石における昇仙圖の系譜 曾布川寛
神亭壺と東呉の文化 小南一郎
チベット文字書寫「長卷」の研究（本文編） 高田時雄
6—8世紀 Kapsi-Kabul-Zabuk の貨幣と發行者 桑山正進
「宋史刑法志」譯注稿（下） 「中國近世の法制と社會」研究班
復社姓氏校録附復社紀略 井上進

第64册（1992年3月）

天命と徳 小南一郎
王杖十簡 富谷至
裴休傳—唐代の一士大夫と佛教— 吉川忠夫
樸學の背景 井上進
宋史刑法志譯注稿（上） 「中國近世の法制と社會」研究班

第63册（1991年3月）

漢代祠堂畫像考 佐原康夫
王逸「楚辭章句」をめぐって—漢代章句の學の一側面— 小南一郎
南朝帝陵の石獸と磚畫 曾布川寛
唐代貶官考 辻正博
明鏡與泉流—論南宗禪影響於詩的一個側面— 孫昌武

第62册（1990年3月） 創立六十周年記念論文集

漢代郡縣の財政機構について 佐原康夫
曆法の發達と政治過程—漢代を中心に— 新井晉司
王遠知傳 吉川忠夫
藝文類聚の條文構成と六朝目録との關連性について 勝村哲也
中國造園史における初期的風格と江南庭園遺構 田中淡
響堂山石窟寺 曾布川寛
唐・玄宗御注『道德眞經』および疏撰述をめぐる二、三の問題 麥谷邦夫
唐代社會における金銀 砺波護
李娃傳の構造 小南一郎
李義山詩集再考—明清諸本覺え書— 荒井健
ウイグル字音史大概 高田時雄
王詵について—二畫風併存の問題— 河野道房
宋代の戸口問題をめぐって 梅原郁

藏書と讀書 井上進
 彭紹升と戴震の思想圈 三浦秀一
 宋教仁にみる傳統と近代—〈日記〉を中心に— 狹間直樹
 「一九二三年恐慌」と中國紡績業の再編 森時彦
 陳獨秀と「二回革命論」の形成 江田憲治
 山丁・『山風』・郷土文學 村田祐子
 部分と全體—インド佛教知識論における概要と後期の問題點— 船山徹
 セルジューク朝と後期ガズナ朝—その國域地帯について— 稻葉穰
 林巳奈夫教授著作目録

第61册（1989年3月）

中國古代の遺物に表はされた「氣」の圖像的表現 林巳奈夫
 漢代の官衙と屬吏について 佐原康夫
 壺型の宇宙 小南一郎
 漢學の成立 井上進
 王國維の學風を論ず—經史子集の革命的轉換— 井波陵一
 五四運動の精神的前提—惲代英の「アナキズム」の時代性— 狹間直樹
 五四前夜天津學生の意識—南開學校『校風』を中心に— 片岡一忠
 勞工神聖の麵包—民國八年秋、北京の思想狀況— 小野信爾
 一滿州文人の軌跡—穆儒丐と『盛京時報』文藝欄— 村田裕子
 中國近代における機械製綿絲の普及過程 森時彦
 論南宋刑政未明之原因及其影響—由《名公書判清明集》所見— 何忠禮
 李義山七律集釋稿（七） 李義山七律注釋班

第60册（1988年3月）

中國古代の玉器、琮について 林巳奈夫
 扁鵲傳説 山田慶兒
 王度「古鏡記」をめぐる—太原王氏の傳承— 小南一郎
 龍門石窟における唐代造像の研究 曾布川寛
 宋代の形勢と官戸 梅原郁
 彭紹升の思想—乾隆期の士大夫と佛教に関する—考察— 三浦秀一
 「笑道論」譯注 「六朝隋唐時代の道佛論争」研究班
 李義山七律集釋稿（六） 李義山七律注釋班
 竹内實教授著作目録

第59册（1987年3月）

中國古代における蓮の花の象徴 林巳奈夫
 先秦時代の鐘律と三分損益法 淺原達郎
 「靜室」考 吉川忠夫
 曹寅について 井波陵一
 周樹人の役人生活 竹内實
 顛頊曆元と歳星紀年法 橋本敬造
 “四・一二”政變前後武漢政府的對策 楊天石
 汪蛟門懋麟年譜初稿（1640—1688） 大平桂一
 博物志校箋 卷一卷二 博物志研究班
 柳田聖山教授著作目録

第58册（1986年3月）

殷墟婦好墓出土の玉器若干に對する注釋 林巳奈夫
 西周金文と曆 淺原達郎
 楚辭の時間意識—九歌から離騷へ— 小南一郎
 宋代佛畫史に於ける清涼寺十六羅漢像の位置 宮寄法子
 《金瓶梅》の構想 井波陵一
 孫文思想における民主と獨裁—中華革命黨創立時における孫文と黃興の對立を中心に— 狹間直樹
 秦始皇陵と兵馬俑に関する試論 曾布川寛
 明初の籍沒田について—江南官田形成過程の一側面— 森正夫
 明代科舉改革の政治的背景—南北卷の創設をめぐる— 檀上寛
 鹽場の泰州學派 森紀子
 山西商人と張居正—隆慶和議を中心に— 小野和子
 明末・楊嗣昌の「剿餉」案について 吉尾寛
 東陽民變—所謂許都の亂について— 谷口規矩雄
 李義山七律集釋稿（五） 李義山七律注釋班

第57册（1985年3月）

鋪首、獸鐙の若干種をめぐる 林巳奈夫
 『老子想爾注』について 麥谷邦夫
 パーミヤーン大佛成立にかかわるふたつの道 桑山正進
 語録の歴史 柳田聖山
 子城制度—中國城市史專題之一— 郭湖生

第一次國共合作的＜626 F 西温＞釀 戴逸
李義山七律集釋稿（四） 李義山七律注釋班
川勝義雄教授著作目錄

第56册（1984年3月）

所謂饕餮文は何を表はしたのか—同時代資料による論證— 林巳奈夫
謝靈運山水詩の背景—始寧時代の作品を中心に— 矢淵孝良
『皇極經世聲音唱和圖』與『切韻指掌圖』—試論語言神祕思想對宋代等韻學的影響— 平田昌司
宋代の武階 梅原郁
古音學における韻尾の設定と音韻特性の「豫約」の問題 尾崎雄二郎
李義山七律集釋稿（三） 李義山七律注釋班

第55册（1983年3月）

殷—春秋前期金文の書式と常用語句の時代的變遷 林巳奈夫
秦漢の勞役刑 富谷至
インドへの道—玄奘とプラバーカラミトラ— 桑山正進
朱晦庵と『易』—その卜筮説をめぐって— 三浦國雄
東林黨考（二）—その形成過程をめぐって— 小野和子
白話小説史に於ける《紅樓夢》の位置 井波陵一
十九世紀ウイグル歴史文獻序説 濱田正美
東京における蕭紅とその作品 村田裕子

第54册（1982年3月）

中國古代の石庖丁形玉器と骨（金産）形玉器 林巳奈夫
新出吐魯番文書發掘整理經過及文書簡介 唐長孺
東方におけるサーサーン式銀貨の再檢討 桑山正進
朱子の『家禮』と『儀禮經傳通解』 上山春平
クビライ政権と東方三王家—鄂州の役前後再論— 杉山正明
續説文解字段注攷正訂補（二） 小學研究班
李義山詩韻譜 松尾良樹
李義山七律集釋稿（二） 李義山七律注釋班

第53册（1981年3月）

殷、西周時代禮器の類別と用法 林巳奈夫
『周禮』の六官制と方明 上山春平
先秦時代の星座と天文觀測 橋本敬造
戰國・秦漢簡牘文字の變遷 江村治樹
『陰陽十一脈灸經』の研究 赤堀昭
新出土醫藥資料における自然品目の探究 森村謙一
漢墓新發現の醫書と抱朴子 村上嘉實
「漢武帝內傳」の成立（下） 小南一郎
周禮疏序譯注 池田秀三
續説文解字段注攷正訂補（一） 小學研究班
李義山七律集釋稿（一） 李商隱研究班

第52册（1980年3月） 創立五十周年記念論文集

序文 河野健二
『周禮』の六奠六彝と考古學遺物 林巳奈夫
春秋戰國時代の銅戈・戟の編年と銘文 江村治樹
先秦時代宮室建築序説 田中淡
九宮八風説と少師派の立場 山田慶兒
馬融私論 池田秀三
師受考—『抱朴子』内篇によせて— 吉川忠夫
東晋貴族制の確立過程—軍事力との關連のもとに— 川勝義雄
陶淵明詩の構成的原理 茂木信之
中國中世共同體試論 勝村哲也
絶觀論とその時代—敦煌の禪文獻— 柳田聖山
隋唐時代の太倉と含嘉倉 礪波護
李義山詩集小考—よくは分らぬ宋版のこと— 荒井健
許導寧の傳記と山水様式に關する—考察— 曾布川寬
宋代の恩蔭制度 梅原郁
中國方志論序説—呉の方志を通じて— 秋山元秀
東林黨考（一）—淮撫李三才をめぐって— 小野和子
明末反地方官士變 夫馬進
日知録經義齋刊本跋 尾崎雄二郎
中華民國第一回國會選舉における國民黨の勝利について 狭間直樹
旅歐中國共產主義青年團の成立 森時彦
姚雪垠「李自成」の構造 深澤一幸
『水滸傳』批判について 竹内實
東方學報京都總目錄

第51冊（1979年3月）

殷周青銅器銘文鑄造法に関する若干の問題 林巳奈夫
 地圖學的見地よりする馬王堆出土地圖の検討 海野一隆
 崑崙山と昇仙圖 曾布川寛
 陶淵明序論 茂木信之
 顔師古の『漢書』注 吉川忠夫
 フランス勤工儉學運動小史（下） 森時彦
 居延漢簡の集成三一地灣（ウラン釘・ドルベルジン）、博羅松治（ポロ釘・ツオンチ）、瓦因托尼（ワイン・トレイ）、
 大灣（タラリンジン釘・ドルベルジン）出土簡一 永田英正
 「通極論」譯注（下） 「隋唐の思想と社會」研究班
 李義山七絶集釋稿（二） 荒井健 / 三浦國雄 / 小南一郎 / 茂木信之 / 森瀬壽三 / 川合康三 / 深澤一幸 / 横山
 弘
 顧炎武『音論』譯注 「清代經學の研究」班

第50冊（1978年2月）

殷西周間の青銅容器の編年 林巳奈夫
 漢鏡の圖柄二、三について（續） 林巳奈夫
 武威漢代醫簡について 赤堀昭
 劉向の學問と思想 池田秀三
 フランス勤工儉學運動小史（上） 森時彦
 舊中國における『女工哀史』 小野和子
 現代中國の歴史性—「儒法鬭争に學べ」運動にみえる呂后、武則天讚美の論理とその挫折— 竹内實
 李義山七絶集釋稿（一） 荒井健 / 三浦國雄 / 小南一郎 / 茂木信之 / 森瀬壽三
 李義山詩各本篇目對照表 森瀬壽三 / 茂木信之 / 松尾良樹
 牧田諦亮教授・日比野丈夫教授著作目録

第49冊（1977年2月）

華北地方における漢墓の構造 町田章
 中國壁畫古墳の建築圖と初唐建築の様式について 田中淡
 五代北宋初期山水畫の一考察—刑浩・關仝・郭忠恕・燕文貴— 曾布川寛
 明末の都市改革と杭州民變 夫馬進
 婚姻法貫徹運動をめぐって 小野和子
 「通極論」譯注（上） 「隋唐の思想と社會」研究班
 藤枝晃教授・田中謙二教授著作目録

第48冊（1975年12月）

漢代の飲食 林巳奈夫
 梁武の蓋天説 山田慶兒
 宋初の寄祿官とその周邊—宋代官制の理解のために— 梅原郁
 「漢武帝内傳」の成立（上） 小南一郎
 高僧傳の成立（下） 牧田諦亮
 朱門弟子師事年攷續 田中謙二
 市原亨吉教授著作目録

第47冊（1974年11月）

魏晉思想と初期中國佛教思想—序— 荒牧典俊
 伊川擊壤集の世界 三浦國雄
 漢代衣服史小考 相川佳予子
 素描—漢代の都市 吉田光邦
 居延漢簡の集成二—破城子（ム・ドルベルジン）出土の定期文書二完— 永田英正

第46冊（1974年3月）

漢代の倉庫について 秋山進午
 西王母と七夕傳承 小南一郎
 中國古代の木材について 杉本憲司
 漢代の音樂と音樂理論 内藤戊申
 居延漢簡の集成一—破城子（ム・ドルベルジン）出土簡一 永田英正
 漢代の機械 橋本敬造
 漢代の鬼神の世界 林巳奈夫
 漢代南越國墓葬考 町田章
 タキシラ佛寺の伽藍構成 桑山正進
 小野川秀美教授・平岡武夫教授著作目録

第45冊（1973年9月）

佩玉と綬—序説— 林巳奈夫
 道教における鏡と劍—その思想の源流— 福永光司

村本文庫藏王校本白氏文集 平岡武夫
唐代の郷貢進士と郷貢明經 愛宕元
青唐の馬と四川の茶—北宋時代四川茶法の展開— 梅原郁
秦檜の講和政策をめぐって 衣川強
歴代詩選と曹學佺の生涯 市原亨吉
ハッダ最近の發掘に關する問題 桑山正進
新獲の唐代蒲昌府文書について 日比野丈夫
敦煌曆日譜 藤枝晃

第44册（1973年2月）

漢鏡の圖柄二、三について 林巳奈夫
孫呉政權の崩壊から江南貴族制へ 川勝義雄
高僧傳の成立（上） 牧田諦亮
「滄浪詩話」と「潛溪詩眼」—宋代詩學おぼえがき— 荒井健
朱門弟子師事年攷 田中謙二
ある陽明學理解について 島田虔次
梅文鼎の數學研究 橋本敬造
唐代史料稿 大和三年 平岡武夫 / 今井清

第43册（1972年3月）

大理石ヒンドゥー像はヒンドゥー王朝のものか 桑山正進
鄂君啓節について 船越昭生
漢代の集議 永田英正
兩稅法定以前における客戶の稅負擔 礪波護
太平天國と婦女解放 小野和子
共和制と帝制—辛亥革命における革命派の認識と行動— 狹間直樹
「中國現代文學史」と「文藝講話」の位置 筧文生

第42册（1971年3月）

長沙出土楚帛畫の十二神の由來 林巳奈夫
藤井有鄰館所藏甲骨文字 伊藤道治
唐代後半における社會變質の一考察 愛宕元
宋代の内藏と左藏—君主獨裁制の財庫— 梅原郁
官僚と俸給—宋代の俸給について續考— 衣川強
朱子の氣象學—朱子の自然學その三一 山田慶兒
橢圓法の展開—『曆象考成後編』の内容について— 橋本敬造
唐代史料稿 大和元年・二年 平岡武夫 / 今井清 / 礪波護
森鹿三教授著作目録

第41册（1970年3月） 創立四十周年記念論集

殷中期に由來する鬼神 林巳奈夫
讀論語説—三則— 福島吉彦
『大人賦』の思想的系譜—辭賦の文學と老莊の哲學— 福永光司
史記の〈笑い〉 田中謙二
史記貨殖列傳と漢代の地理區 日比野丈夫
漢代の選舉と官僚階級 永田英正
樓蘭文書札記 藤枝晃
『世説新語』の編纂をめぐって—元嘉の治の一面— 川勝義雄
六朝士人の觀音信仰—王玄謨の歸信— 牧田諦亮
令集解所引玉篇考 森鹿三
唐の律令體制と宇文融の括戶 礪波護
白居易と寒食・清明 平岡武夫
蜀刻唐六十家集攷 市原亨吉
全五代詩について 今井清
宋代の戸等制をめぐって 梅原郁
宋代の俸給について—文臣官僚を中心として— 衣川強
顔元の學問論 小野和子
梅文鼎の曆算學—康熙年間の天文曆法— 橋本敬造
章學誠の位置 島田虔次
光復會の成立 小野川秀美
辛亥革命時期の湖北における革命と反革命—江湖會の襄陽光復を中心— 狹間直樹
「中國現代文學史」と三〇年代文藝の評價 筧文生
『坤輿萬國全圖』と鎖國日本 船越昭正
インド佛教思想史の基礎づけのために 荒牧典俊
藪内清教授・岩村忍教授・長廣敏雄教授著作目録

第40册（1969年3月）

元代散曲の研究 田中謙二
朱子の天文學（下）—朱子の自然學其の二— 山田慶兒
中國古代の祭玉、瑞玉 林巳奈夫

北朝における『康鬢經』の傳承 藤枝晃
唐代史料稿 長慶四年 平岡武夫 / 礪波護
第七次イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査豫報 イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査隊
貝塚茂樹教授・水野清一教授著作目録

第39冊（1968年3月）

殷周時代の圖象記號 林巳奈夫
大蕃國大徳三藏法師沙門法成の研究（下） 上山大峻
朱子の天文學（上）—朱子の自然學その二— 山田慶兒
鄭和の航海—その航海法について— 橋本敬造
唐代史料稿 長慶三年 平岡武夫 / 今井清 / 礪波護
小島祐馬先生（初代所長）の著書—追憶の記— 平岡武夫

第38冊（1967年3月）

鎖國日本にきた『康熙圖』—わが國近代地理學の前驅— 船越昭生
大蕃國大徳三藏法師沙門法成の研究（上） 上山大峻
中國古代の神巫 林巳奈夫
放從良—白居易の奴婢解放— 平岡武夫
唐代史料稿 長慶二年 平岡武夫 / 今井清 / 礪波護
一九六五年イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査豫報 イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査隊

第37冊（1966年3月）

宋元時代における科學技術の展開 藪内清
朱子の宇宙論 山田慶兒
隋の貌閔と唐初の食實封 礪波護
後漢時代の車馬行列 林巳奈夫
王闔運文學論 何朋
故小川睦之輔氏藏甲骨文字 伊藤道治
唐代史料稿 長慶元年 平岡武夫 / 市原亨吉 / 今井清 / 礪波護
長慶元年の曆 平岡武夫
西アジア採集ガラスおよび油藥の化學的研究 吉田光邦 / 室賀照子
第四、五次イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査豫報 考古・美術班
第五次イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査豫報 地理班
長沙出土戰國帛書考補正 林巳奈夫

第36冊（1964年10月） 創立三十五周年記念論集

金文に現れる夏族標識 貝塚茂樹
姓による族的結合 鈴木隆一
長沙出土戰國帛書考 林巳奈夫
公孫龍子の研究 宮崎市定
漢代肖像畫の精神史的背景 長廣敏雄
居延漢簡烽（隊火）考—とくに甲渠候官を中心として— 永田英正
漢書地理志の秦郡について 日比野丈夫
郭象の「莊子注」と向秀の「莊子注」—郭象盜竊説についての疑問— 福永光司
劉宋政權の成立と寒門武人—貴族制との關連において— 川勝義雄
修文殿御覽について 森鹿三
寶山寺靈裕について 牧田諦亮
維摩變の系譜 藤枝晃
坐禪と坐忘について 藤吉慈海
東都留守時代の裴度の生活 市原亨吉
白居易とその妻 平岡武夫
白樂天の健康状態 今井清
梅堯臣論 笈文生
蘇軾と佛教 竺沙雅章
朱子の宇宙論序説 山田慶兒
施宿編東坡先生年譜の發見 倉田淳之助
元時代の肉刑について 岩村忍
雜劇「西廂記」の南戲化—西廂物語演變のゆくえ— 田中謙二
明代思想の一基調—スケッチ— 島田虔次
西遊記のなかの西遊記 荒井健
回回曆解 藪内清
清初の講經會について 小野和子
『大情一統志』のロシア記事 船越昭生
劉師培と無政府主義 小野川秀美
ガンダーラの一斷石 水野清一

第35冊（1964年3月） 敦煌研究

序 森鹿三
敦煌千佛洞の中興—張氏諸窟を中心とした九世紀の佛窟造營— 藤枝晃
曇曠と敦煌の佛教學 上山大峻
敦煌出土「社」文書の研究 竺沙雅章

敦煌本『張仲景五藏論』校譯注 宮下三郎
句法・韻律よりみた擬張撰『五藏論』の唱誦部分 田中謙二
中國佛教における疑經研究序説—敦煌出土疑經類をめぐって— 牧田諦亮
敦煌本「佛名經」の諸系統 井ノ口泰淳
中國における羯磨の變遷—スタイン本を中心にして— 土橋秀高
敦煌定格聯章曲子補録 入矢義高
スタイン敦煌文獻中の曆書 藪内清
敦煌絹幡「金剛力士像」について 長廣敏雄

第34冊（1964年3月）

白居易の家庭環境に関する問題 平岡武夫
元時代における紙幣インフレーション—經濟史的研究— 岩村忍
黄宗羲の前半生—とくに『明夷待訪録』の成立過程として— 小野和子
殷周青銅彝器の名稱と用途 林巳奈夫
アフガニスタンのバシュトゥン族とバシュトゥ語 勝藤猛
細川護立氏藏『皇明文海』について 小野和子
第三次イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査豫報 京都大學イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査隊

第33冊（1963年3月）

陶淵明の「眞」について—陶淵明の思想とその周辺— 福永光司
一生一及の相續法 鈴木隆一
唐代の判について 市原亨吉
康熙時代のシベリア地圖—羅振玉舊藏地圖について— 船越昭生
現代インドの佛教復興運動—大菩提會とアンパードカールの運動を中心として— 藤吉慈海
居延出土の王莽簡 森鹿三
唐代蒲昌府文書の研究 日比野丈夫

第32冊（1962年3月）

嵇康における自我の問題—嵇康の生活と思想— 福永光司
侯景の亂と南朝の貨幣經濟 川勝義雄
五戸絲と元朝の地方制度 岩村忍
元典章における蒙文直譯體の文章 田中謙二
殷以前の血縁組織と宗教 伊藤道治
戰國式帶鈎について 長廣敏雄
中世科學技術史序説 藪内清
パキスタン、チャナカ・デーリの第二回發掘 京都大學イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査隊

第31冊（1961年3月）

魏收と佛教 塚本善隆
宗法の成立事情 鈴木隆一
武氏祠左右室第九石の畫象について 長廣敏雄
敦煌の僧官制度 竺沙雅章
吐蕃支配期の敦煌 藤枝晃
劉致遠作散曲「上高監司」續攷 田中謙二
唐長安大安國寺利渉について 牧田諦亮
パキスタン、チャナカ・デーリの發掘略報告 林巳奈夫

第30冊（1959年12月） 中國古代科學技術史の研究

漢代における觀測技術と石氏星經の成立 藪内清
中國古代の城について 大島利一
中國古代農業の展開—華北農業の形成過程— 天野元之助
周禮考工記の一考察 吉田光邦
中國古代の疾病觀と療法 宮下三郎
古代シナにおける割烹 篠田統
周禮考工記の車制 林巳奈夫

第29冊（1959年3月）

閻立德と閻立本 長廣敏雄
中國古代の金屬技術 吉田光邦
歐亞大陸の東亞栽培植物の交流 北村四郎
居延漢簡の集成—とくに第二亭食簿について— 森鹿三
中國先秦時代の馬車 林巳奈夫
敦煌の僧尼籍 藤枝晃
安陽小屯殷代遺蹟の分布復原とその問題 伊藤道治
唐長安城の遺蹟調査と夏承燾氏の曲江池考 平岡武夫
歐米宗教界の印象 藤吉慈海

第28冊（1958年3月）

中國近世の主觀唯心論について—萬物一體の仁の思想— 島田虔次
寒山詩管窺 入矢義高

阮籍における懼れと慰め—阮籍の生活と思想— 福永光司
魏晉南朝の門生故吏 川勝義雄
中唐初期における江左の詩僧について 市原亨吉
東林派とその政治思想 小野和子
イランにおける各種技術の觀察記 吉田光邦
中國訪問記 塚本善隆 / 牧田諦亮

第27册（1957年3月） 漢代史研究

史記における表現の反覆 田中謙二
漢の西方發展と兩關開設の時期について 日比野丈夫
漢代爵制の源流として見たる商鞅爵制の研究 守屋美都雄
漢律體系化の試論—列侯の死刑をめぐって— 布目潮風
漢律における「不道」の概念 大庭脩
漢代徭役日數に關する一試論—特に「三十倍於古」について— 米田賢次郎
漢代の馬口錢と口錢に就いて 平中苓次
居延簡に見える馬について 森鹿三
漢書板本攷 倉田淳之助
觀音菩薩と普賢菩薩—雲岡圖像解— 水野清一
譚嗣同の變革論—その形成過程— 小野川秀美
唐代史料稿（三） 平岡武夫 / 市原亨吉 / 今井清

第26册（1956年3月）

卜辭に見える祖靈觀念について 伊藤道治
傳統藝術について 吉田光邦
寶誌和尚傳攷 牧田諦亮
中國天文學における五星運動論 藪内清
中國におけるスキの發達 天野元之助
タキシラよりスーサまで 岡崎敬
元代白話碑集録を讀む 入矢義高
唐代史料稿（二） 平岡武夫 / 市原亨吉 / 今井清

第25册（1954年11月） 創立二十五周年紀念論文集（人文學報第5號合併號）

序 羽田亨
序 貝塚茂樹
中國出土の一群の銅利器に就いて 梅原末治
西周の農業 天野元之助
孟子の春秋時代觀 鈴木隆一
孔子學團 宇都宮清吉
黃老から老莊及び道教へ—兩漢時代に於ける老子の學— 木村英一
太公九府圖法説について 伊藤道治
河西四郡の成立について 日比野丈夫
漢代邊境兵士の給與について 米田賢次郎
漢の蚩尤伎について—武氏祠畫像の解— 水野清一
たいまいを通じてみた古代南海貿易について—樂浪より南海まで— 岡崎敬
曹操軍團の構成について 川勝義雄
列子の書に見える絶對的人間 重澤俊郎
古逸六朝觀世音應驗記の出現—晉・謝敷、宋・傅亮の光世音應驗記— 塚本善隆
畫家尉遲乙僧について 長廣敏雄
中國に於ける民俗佛教成立の一過程—泗州大聖・僧伽和尚について— 牧田諦亮
『說郛』版本諸説と私見 倉田淳之助
公安から竟陵へ—袁小修を中心として— 入矢義高
渾儀と渾象 吉田光邦
A I 倉石武四郎
アジア農業の特質—特に中國における耕種方式をめぐって— 柏祐賢
ヨーガヴァシシュトハにおけるジーヴァンムクティについて 藤吉慈海
軍人勅諭と軍人道徳 坂田吉雄
不平等條約下の日本 井上清
明治前半期における西村茂樹の教育思想 本山幸彦
自由民權運動の經濟的背景 後藤靖
集合意識と個人意識 清水盛光
數學的論理學と辯證法的論理學との關係—チャールズ・パースの論理思想をめぐって— 上山春平
ルネサンスの美術と社會—ミケランジェロの場合— 會田雄次
絶對王政とゼントリー—特に十六世紀英國を中心として— 田中裕
英國農業革命の技術構造—とくにカブ栽培の導入過程について— 飯沼二郎
フランス革命の政治家たち 樋口謹一
明治前期の勞働爭議—三〇年以前の爭議事例の紹介— 渡部徹
民法第七六八條の系譜と立案經過の點描—立案者の見解を中心として— 太田武男
漢簡職官表 藤枝晃
神農本經所載藥品について 森鹿三
唐代史料稿 平岡武夫 / 市原亨吉 / 今井清
京都大學人文科學研究所沿革

第24册（1954年2月） 元典章の研究

元典章刑部の研究—刑罰手續— 岩村忍
宋元時代の法制と裁判機構—元典章成立の時代的・社會的背景— 宮崎市定
元時代の包銀制の考究 安部健夫
元典章に見えた漢文吏牘の文體 吉川幸次郎
別里哥文字攷—元典章研究の一齣— 山崎忠
元典章の流傳 倉田淳之助

第23册（1953年3月） 殷代青銅文化の研究

甲骨文斷代研究法の再検討—董氏の文武丁時代卜辭を中心として— 貝塚茂樹 / 伊藤道治
殷商青銅器編年の諸問題 水野清一
鉞と矛について—殷商青銅利器に關する—研究— 岡崎敬
殷代技術小記 吉田光邦
殷周銅器に現れる龍について—附論・殷周銅器における動物表現形式の二三について— 林巳奈夫
鳳雞の諸器について—中國古銅器聚成の一つの試み— 岡田芳三郎
殷代産業に關する若干の問題 天野元之助
殷墟關係文獻目録
殷墟發掘年表
河南安陽遺蹟地圖
河南安陽小屯發掘圖
卷頭圖版解説
甲骨圖版解説
後記 貝塚茂樹

第22册（1953年2月）

慣行と慣習—二概念の相關性— 清水盛光
ジツテと朱子の學 木村英一
華北農村における同族の祭祖行事について 内田智雄
南京不動産の賣契の研究 渡邊幸三
海南島土地賣買慣行と同族先買權の問題 天野元之助
鄉村防衛と堅壁清野 日比野丈夫
水利における二三の問題 米田賢次郎
正月十五日の行事 森鹿三

第21册（1952年3月）

清末の思想と進化論 小野川秀美
陳粵の農書と水稻作技術の展開（下） 天野元之助
彈詞攷 倉田淳之助
佛教に於ける批判的精神の問題 藤吉慈海
唐慎微の經史證類備急本草の系統とその版本 渡邊幸三
公輪子に關する二三の説話 森鹿三
殷代の曆法—董作賓氏の論文について— 藪内清
唐代龍門佛頭二種 水野清一

第20册（1951年3月）


八旗滿洲ニルの研究 とくに天命初期のニルにおける上部人的構造—甲士の篇— 安部健夫
東京夢華録の文章 入矢義高
清末變法論の成立 小野川秀美
勞幹氏の「北魏洛陽城圖復原」を評す 森鹿三
陶弘景の本草に對する文獻學的考察 渡邊幸三
朝鮮水産業の開發過程 吉田敬市
附圖滿洲における特殊屯堡の分布圖 安部健夫

第19册（1950年12月）

陳の革命と佛牙 塚本善隆
陳粵の『農書』と水稻作技術の展開（上） 天野元之助
中國に於けるイスラム天文學 藪内清
中國栽培植物の起源 北村四郎
宋代銅錢問題に關する新見解—わが國における發掘錢より出發して— 日比野丈夫
文苑英華の編纂 花房英樹
西夏の死都カラ・ホトの調査の概要について 松田一政
中江丑吉氏遺著『中國古代政治思想』について 木村英一
天龍山北齊佛頭—圖版解説— 水野清一

第18册（1950年2月）

中國鄉村の治水灌漑に現はれたる通力合作の形式 清水盛光

天台智  の實相論 藤吉慈海

「董西廂」に見える俗語の助字 田中謙二
北周の廢佛に就いて（下） 塚本善隆
魏・西晉の中正制度 宮川尚志
いはゆる華嚴教主盧遮那佛の立像について 水野清一
浙江海鹽縣の里甲 小畑龍雄

第17册（1949年11月）

中國哲學史序説稿本 狩野直喜
羅教の成立と流傳について 塚本善隆
學僧宗喀巴—その傳と著作目録 長尾雅人
新唐書地理志の土貢について 日比野丈夫
白樂天の補逸書 平岡武夫
狩野先生の學風 小島祐馬
狩野君山先生略譜

第16册（1948年9月）

古代に於ける歴史記述形態の變遷 貝塚茂樹
北周の廢佛に就いて 塚本善隆
詩歸について 入矢義高
畫象印について 水野清一
阿爾泰軍臺について 日比野丈夫
名物六帖の引用書籍に就いて 花房英樹

第15册（4分册1945年1月、1946年1、11月、1947年6月）

老子化胡經の研究 松本文三郎
支那中世の交通 青山定雄
元雜劇の文章 吉川幸次郎
毛詩正義の論證に就いての一考察 小尾郊一
穀類抄に就いて 松村慈孝
西洋天文學の東漸—清代の曆法 藪内清
明末における經書の續成—尚書六體遺範について 平岡武夫
白氏文集傳本に就いて 小尾郊一
舊支那に於ける兒童の學塾生活 田中謙二
蒙古喇嘛廟調査記（下）—厚和の諸廟と五當召 長尾雅人
林西先史遺蹟踏査記 水野清一
雲岡石窟調査記—昭和十九年度 雲岡石窟調査班
元雜劇の用語 吉川幸次郎
豊坊と古書世學（上）（下） 平岡武夫
汜勝之書について 大島利一
讀白樂天詩記（一） 神田喜一郎
太初改曆とその曆法 天文曆算研究室
雲岡石窟に於ける佛像の服制について 長廣敏雄
龜卜と筮 貝塚茂樹

第14册（4分册1943年12月、1944年2、6、10月）

四十二章經成立年代考 松本文三郎
陽明學の性格 安田二郎
元曲助字雜考 入矢義高
兩漢郡國令長考 羅繼祖
東方文化研究所漢籍分類目錄解説 倉田淳之助
東京及安南北部發見の古鏡 梅原末治
元雜劇の構成（上）（中）（下） 吉川幸次郎
宋代走馬承受の研究（上）（下） 佐伯富
元明曆法史 藪内清
支那成實學派の隆替について 春日禮智
王勃年譜 鈴木虎雄
尚書を續ける人々（中世篇） 平岡武夫
李昭道の海圖について 長廣敏雄
神獸鏡の「口銜巨」の圖様に就いて 梅原末治
史記天官書恆星考 清水嘉一
喇嘛教教理の概要 長尾雅人
蒙古喇嘛廟調査記 長尾雅人
雲岡石窟調査記（昭和十八年度） 雲岡石窟調査班

第13册（4分册1942年6月、1943年1、6、9月）

鳴尾考 松本文三郎
二十八宿と吠陀成立年代 善波周
沙州歸義軍節度使始末（三）（四） 藤枝晃
雲岡石窟調査記 雲岡石窟調査班
蘇州話譯稿（一）（二） 高倉正三
竹冊と支那古代の記録 平岡武夫

唐代曆法に於ける歩日躡月離術 藪内清
毛詩正義校定資料解説 經學文學研究室
攝大乘論世親釋の漢藏本對照 長尾雅人
元雜劇の作者 吉川幸次郎
玉燭寶典について 新美寛
清末より現在に至る支那の測量地圖 日比野丈夫
唐宋曆法史 藪内清
元雜劇の作者 吉川幸次郎
登科記考補 羅繼祖
元雜劇の題材 田中謙二
雲岡石窟調査記 雲岡石窟調査班

第12冊（4分冊1941年6、9、12月、1942年3月）
牟子理惑論の述作年代考 松本文三郎
漢書補注補 狩野直喜
王者の記録としての龜甲文と銅器銘 平岡武夫
后羿傳説考 森三樹三郎
殷周より隋に至る支那曆法史 藪内清
讀元曲選記（三）（四）（五）（六） 經學文學研究室
漢書補注補 狩野直喜
支那に於ける刑罰の起源に就いて 小島祐馬
夏小正星象論 能田忠亮
元曲に於ける險韻について 田中謙二

「盛世新聲」と「重刊增益詞林摘ix」 入矢義高
キジール紅穹窿洞—その復原圖の作成 長廣敏雄 / 岡田芳三郎
支那在家佛教特に庶民佛教の一經典—提謂波利經の歴史 塚本善隆
沙州歸義軍節度使始末（一）（二） 藤枝晃
話本の性格について 入矢義高
釋滾調 傅芸子
「俗」の歴史 吉川幸次郎
支那に於ける維摩經研究史序説 春日禮智
河北省順義縣に滿鐵調査班を訪ふの記 大島利一

第11冊（4分冊1940年4、7、10月、1941年1月）

夾紵の像器に就いて 松本文三郎
殷末周初の東方経略に就いて（上）（下） 小川茂樹
秦漢に於ける民間祭祀の統一 森三樹三郎
漢書補注補 狩野直喜
古代利器の化學的研究 山内淑人 / 小泉瑛一 / 小松茂
尚書孔氏傳解題 吉川幸次郎
支那銅利器の成分に關する考古學的考察 梅原末治
兩漢曆法考 藪内清
新修本草と小島寶素 森鹿三
敦煌發見唐宋時代の離婚書 仁井田陞
古代支那藝術の抽象性 長廣敏雄
三性説とその譬喩 長尾雅人
讀尚書注疏記（八）（九）（十） 經學文學研究室
讀元曲選記（一）（二） 經學文學研究室
開皇二年四面十二龕像に就いて 水野清一
武州川の火井をたづねて 日比野丈夫
喇嘛廟とその文獻 長尾雅人
臧氏元曲選異文表 經學文學研究室
植物の漢名について 木村康一
漢代漆器紀年銘文集録補遺第二 梅原末治
朱子解釋について津田博士の高教を仰ぐ 安田二郎
栗棘庵所藏輿地圖解説 森鹿三

第10冊（4分冊1939年5、7、10月、1940年1月）

兜跋毘沙門攷 松本文三郎
漢書補注補 狩野直喜
北魏建國時代の佛教政策と河北の佛教 塚本善隆
桃源瑞仙の史記抄を読む 大島利一
禮經と漢制 狩野直喜
世説新語の時代 宇都宮清吉
世説新語の文章 吉川幸次郎
十二律管について 藪内清
尚書正義解題 吉川幸次郎
琉球歸屬に關するグラントの調停 三國谷宏
金藤説話と尚書の今古文 平岡武夫
朱子の「氣」に就いて—主として存在論的側面からの解明— 安田二郎
本草の研究に就いて 木村康一
舞樂蘭陵王考 傅芸子
讀尚書注疏記（四）（五）（六）（七） 經學文學研究室
アレクセーエフ教授の業績 藤枝晃
説文展觀餘録 倉田淳之助

紅豆齋鈔本尚書大傳五卷 高倉正三
（書評）長澤規矩也 支那文學史研究法私説 吉川幸次郎
大同善化寺石刻録 水野清一
本所善本提要

第9冊（1938年10月）

漢書補注補 狩野直喜
支那の詔敕文と其の起草者 鈴木虎雄
舊鈔本禮記正義を校勘して 吉川幸次郎
殷代金文に見えた圖象文字に就いて 小川茂樹
支那劇音樂の採譜について 長廣敏雄
史記引く所の尚書説 佐藤匡玄
宋代の皇域司に就いて 佐伯富
成唯識論に於ける造論意趣に就いて 長尾雅人
説郭攷 渡邊幸三
讀尚書注疏記（三） 經學文學研究室
雲岡石窟調査記 水野清一
遊支日記 藪内清
（書評）陳嘯江 魏晉時代之「族」 宇都宮清吉
（書評）楊聯陞 東漢的豪族 宇都宮清吉
（書評）能田忠亮 禮記月令天文攷 吉川幸次郎
（書評）小野勝年譯註 歷代名畫記 吉川幸次郎
本所善本提要
（附録）Erganzungsband zu den Neugebauers Sterntafeln.
（附録）アルバース氏等積圓錐圖法について 小川琢治

第8冊（1937年10月）

北曲の遺響 青木正兒
古鏡の化學的研究 小松茂 / 山内淑人
古鏡の化學成分に關する考古學的考察 梅原末治
唐開元古經中の星經 藪内清
唇音を語尾子音とする古韻研究 高畑彦次郎
北魏唐草文様の二三について 長廣敏雄
堯典に見えた天文 能田忠亮
日本に遺存せる遼文學とその影響 補遺 塚本善隆
新出檀伯達器考 小川茂樹
長沙出土の木偶について 水野清一
讀尚書注疏記（二） 經學文學研究室
新獲文選集注斷簡 新美寛
山東旅行日記

第7冊（1936年12月）

河南安陽發見の遺物—主として新發見の古墓出土品に就いて 梅原末治
宋代の星宿 藪内清
西周時代に於ける罰金徵收制度 小川茂樹
唐六典の行用に就いて 内藤乾吉
東亞外交史料としての舊奎章閣所藏文書—特に馬山浦事件について 三國谷宏
最近（一九二七年以後）の古韻研究 續編 高畑彦次郎
最近に於ける水經注研究—殊に鄭德坤の業績について 森鹿三
日本に遺存せる遼文學と其の影響—眞福寺藏戒珠集往生淨土傳と金澤文庫藏漢家類聚往生傳に就いて 塚本善隆
讀尚書注疏記（一） 經學文學研究室
鹿角製銜枝「鑣」に就いて 補遺 水野清一
北支史蹟調査旅行日記

第6冊（1936年2月）

分野説と古代支那人の信仰 小島祐馬
佛教史料としての金刻藏經—特に宋釋教目錄と唐宋法相宗章疏に就て 塚本善隆
漢代容器器形に就いて 長廣敏雄
鹿角銜枝「鑣河路」について 水野清一
最近（一九二七年以後）の古韻研究 高畑彦次郎
詩經の日蝕に就て 能田忠亮
闔門中中門 渡邊幸三
臧在東先生年譜 吉川幸次郎
「五行の排列と五帝德に就て」補遺四則 狩野直喜
漢代漆器紀年銘文集録補遺 梅原末治
「中華民國及滿洲國疆城圖」製作過程に就て 太田喜久雄
本草に就て 中尾萬三

第5冊副刊（1935年3月）房山雲居寺研究

石經山雲居寺と石刻大藏經 塚本善隆

房山雲居寺塔記 長廣敏雄
房山雲居寺石塔記 水野清一
房山雲居寺石浮屠記銘考 小川茂樹
房山地方の沿革地理 森鹿三
北支那の地勢と地質 太田喜久雄
房山雲居寺碑目
房山雲居寺碑文選録
房山西域雲居禪林志—附圖解説— 森鹿三
遊支日記

第5册（1934年7月）

追記前清考試制度 董康
則天武后の白司馬坂大像に就いて 松本文三郎
五行の排列と五帝徳に就いて（續篇） 狩野直喜
支那言語學序説 高畑彦次郎
左氏凡例辨 吉川幸次郎
秦の改時改月説と五星聚井の辨 能田忠亮
左氏春秋平義 重澤俊郎
漢代漆器紀年銘文集録 梅原末治
支那古銅器の藝術學的分析 長廣敏雄

第4册（1933年12月）

左傳鄭服異義説 重澤俊郎
文人畫の發生 伊勢專一郎
宋紹熙板禮記正義に就いて 常盤井賢十
漢代を中心とする動物表現に就いて 長廣敏雄
漢代論天攷 能田忠亮
李愷法經考 小川茂樹
支那古銅器の一考察 水野清一
十道志に引用せる水經について 森鹿三
唐中期以來の長安の功德使 塚本善隆
ベルンハルト・カルルグレンの官話に於ける不規則的有氣音から見たるトルコ語の轉寫音 高畑彦次郎
清季東亞外交史に關する近刊の漢文史料について 三國谷宏
南滿洲遼陽出土の漢代瑠玉 水野清一

第3册（1933年3月）

五行の排列と五帝徳に就て 狩野直喜
古紐研究 高畑彦次郎
喪服源流考 松浦嘉三郎
戴震の水經注校定について 森鹿三
敦煌出土の唐騎都尉秦元告身 内藤乾吉
金文に見えたる錫臣の記事に就て 小川茂樹
東洋古銅器の化學的研究 小松茂 / 山内淑人
支那古銅器の化學的研究に就て 梅原末治
前漢代における墓飾石彫の一群に就て 水野清一
胸中の丘壑 伊勢專一郎

第2册（1931年11月）

顧愷之の山水畫論 伊勢專一郎
戴宏解疑論考 吉川幸次郎
支那古代の銅利器に就いて 梅原末治
説文解字段注攷正訂補 倉石武四郎
玉璧考 水野清一
南嶽承遠傳とその淨土教 塚本善隆
元史刑法志と「元律」との關係に就いて 安部健夫
爽籟館欣賞第一輯伊勢專一郎

第1册（1931年3月）

甘石星經考 能田忠亮
北支那發見の一種の銅容器と其の性質 梅原末治
支那古代の長子相續制度 松浦嘉三郎
引路菩薩信仰に就いて 塚本善隆
水經注に引用せる法顯傳 森鹿三
工藝史上より見たる漢様式と銅鏡 長廣敏雄
大元通制解説—新刊本通制條格の紹介に代へて 安部健夫
董龔藏書畫譜 伊勢專一郎

[发表评论](#)

[查看评论](#)

[加入收藏](#)

[Email给朋友](#)

[打印本文](#)

如果你想对该文章评分, 请先[登陆](#), 如果你仍未注册, 请点击[注册链接](#)注册成为本站会员.

平均得分 0, 共 0 人评分

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10